マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第2部 根拠を見つける

U03　文章の骨組み

（対比・具体と抽象・譲歩・キーワード）

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　評論「同じ場所にいること」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　文章の骨組みのルール

R03-1　対比(二項対立)に＋と−

二つの事柄・考え方を対置している箇所に＋／−をつける。＋／−は一般的な良し悪しではなく、筆者の評価で決める。

R03-2　＋の強調は傾向にすぎない

多くの場合＋の側が主張になる。ただし、両者の使い分け・相補を説く文章、＋と−が段落ごとに入れかわる文章、二項対立そのものを問い直す(相対化する)文章もある。結論の段落で筆者の重みを確かめる。

R03-3　譲歩構文と「むしろ」

「たしかに／もちろん〜。しかし／だが〜」は逆接の後ろが主張。「むしろ」の後ろも主張。譲歩の部分は、主張の対極(−の側)として答えに使える。

R03-4　具体と抽象

具体例(体験・事例)は抽象的な主張を支えるためにある。答えでは具体例の前後の抽象的なまとめを使い、具体例はそのまま書かない(必要なら抽象化する)。

R03-5　キーワードと言いかえの連鎖

反復される語と、その言いかえ(同義表現)を線でつなぐ。定義の文(〜とは〜である)があれば、それを答えの核にする。

R03-6　対比の答えは両側を書く

「Aではなく(Aとちがって)B」の形で、＋の側を中心に−の側を添えると、主張の輪郭がはっきりする。

R03-7　二項対立を問い直す文章

「どちらか一方を選べ」と言わない結論のときは、両者の関係(支えあう・行き来する)そのものを答えの中心にする。片方に＋をつけて答えると、筆者の主張と食いちがう。

ルールの番号(R03-○)は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　評論「同じ場所にいること」

① 遠く離れた人とも、画面ごしに顔を見ながら話せるようになった。会議も授業も、移動の時間をかけずに行える。移動の時間や費用を考えれば、その便利さは疑いようがない。用件を伝え、情報を交換するためであれば、もはや同じ場所に集まる必要はないようにも思える。

② たしかに、伝えるべき内容がはっきりしているとき、オンラインの対話はきわめて効率がよい。しかし、私たちが人と「会う」とき、そこで交わされているのは、言葉の内容だけではない。

③ 画面の上の対話は、話すか、黙るかのどちらかである。相手の表情は四角い枠に切りとられ、視線もどこか少しずれている。沈黙が数秒つづけば、回線の不具合を疑って「聞こえていますか」と声をかけてしまう。そこでは、言葉にならないものは、存在しないも同然に扱われる。

④ それに対して、同じ部屋にいる人どうしは、言葉がとぎれても、そこにともにいることができる。相手の呼吸の深さや、椅子のきしむ音、ふと視線を落とすしぐさ。私たちは、言葉になる以前の相手の気配を、身体で受けとっている。沈黙は、ここでは空白ではなく、相手とともに過ごしている時間の一部である。

⑤ 入院している祖父を見舞ったときのことを思い出す。祖父はもう長くは話せなかった。私も何を言えばよいのかわからず、ただ、ベッドの横に座って、祖父の手に自分の手を重ねていた。一時間ほどして帰ろうとすると、祖父は小さな声で「来てくれて、よかった」と言った。私たちは、ほとんど何も話していなかったのである。

⑥ 会うとは、情報を受けわたすことではなく、言葉にならないものまで含めて、同じ時間をともに過ごすことである。その意味で、会うことは、言葉を交わすこと以上の営みなのだ。効率という物差しだけで人との時間を測るとき、私たちは、この「ともにいる」ことの重みを見失いかねない。

問　――線部「会うことは、言葉を交わすこと以上の営みなのだ」とあるが、筆者は「会う」ことをどのようなことだと考えているか。本文の対比をふまえて百字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　骨組みをとる**
   ①一般論（同じ場所に集まる必要はない）／②譲歩構文（たしかに効率がよい。しかし～）／③画面の対話（－）／④同じ部屋（＋）／⑤具体例（祖父の見舞い）／⑥定義と結論。
2. **手順2　対比の両側**
   －：画面の対話＝話すか黙るか。言葉にならないものは存在しないも同然。＋：同じ部屋＝言葉がとぎれてもともにいられる。言葉になる以前の気配を身体で受けとる。
3. **手順3　定義の文を核にする**
   ⑥段落「会うとは、情報を受けわたすことではなく、～ともに過ごすことである」＝定義の文（R03-5）。「Aではなく B」の形がそのまま対比の答えの骨になる（R03-6）。

4. **手順4　キーワードの連鎖**

「ともにいる」(④⑥)・「言葉にならないもの」(③⑥)＝「言葉になる以前の気配」(④)。言いかえを一本の線でつなぎ、④の「身体で受けとる」で中身を補う。

5. **手順5　具体例を外す**

⑤段落の祖父の話は具体例。手を重ねた・「来てくれて、よかった」はそのまま書かない(R03-4)。

要素表(材料を集める)

要素	中身	根拠	入れる？
主張(＋)	言葉にならない相手の気配まで身体で受けとり、同じ時間をともに過ごす	④⑥	◎ 入れる
対比の相手(−)	言葉の内容や情報を受けわたすこと(画面の対話)	③⑥	◎ 入れる
譲歩	内容がはっきりしているとき、オンラインは効率がよい	②	△ 入れない
具体例	祖父の手に手を重ねていた／「来てくれて、よかった」	⑤	× そのまま書かない
背景	効率という物差しで人との時間を測る	⑥	△ 入れない

模範解答

模範解答(百字以内)　89字／100字以内

会うとは、画面ごしの対話のように言葉の内容や情報を受けわたすことではなく、同じ場所で、言葉にならない相手の気配まで身体で受けとりながら、同じ時間をともに過ごすことだと考えている。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
主張(＋):言葉にならない気配まで身体で受けとり、同じ時間をともに過ごす	4点
対比の相手(−):言葉の内容・情報を受けわたすことではない	3点
キーワード(ともにいる・言葉にならないもの)を使い、具体例をそのまま書いていない	2点
「〜こと(だと考えている)」で終え、主述がねじれていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「祖父の手に手を重ねるように、話さなくても伝わること。」	具体例のまま。抽象化されていない。10点中2点。
「オンラインの対話は効率がよいということ。」	譲歩の部分＝筆者がいったん認めた側。主張と逆。0点。
「同じ時間をともに過ごすこと。」	対比の相手(−)が無く、何と比べて「以上」なのかが言えていない。3点引いて7点。
百一字以上	字数超過。採点対象外になることが多い。

練習1　評論「弱さを見せる」

① 「人に迷惑をかけないように」。私たちは幼いころから、そう言われて育つ。迷惑をかけないことは、思いやりの基本だとも教えられる。自分のことは自分でできる人が、一人前の大人だと考えられている。

② もちろん、自分の力で生活を成り立たせることは大切である。だが、だれにも頼らずに生きている人など、ほんとうはどこにもいない。私たちが口にする食べ物も、身にまとう服も、見知らぬだれかの手を経て届いている。

③ それにもかかわらず、困ったときに「助けて」と言うことは、多くの人にとって難しい。弱さを見せれば、能力が低いと思われるのではないか、相手の負担になるのではないか、という不安がよぎるからだ。こうして私たちは、困っていることを隠し、だいじょうぶなふりをして、ひとりで抱えこむようになる。

④ ある病院で、新しく入った看護師が、わからないことをためらわずに先輩にたずねていた。最初は頼りなく見えた彼女のまわりには、いつのまにか、教える人、相談する人が集まるようになった。彼女が弱さを見せたことで、周囲の人は、自分の知識や経験が役に立つ場面を得たのである。彼女自身も、教わったことを、やがて次の新人に伝えるようになった。

⑤ 弱さを見せることは、相手に負担をかけることではない。むしろ、それは相手に、手をさしのべる場所をひらくことである。「助けて」という言葉が発せられたとき、はじめて人と人とのあいだに、支え、支えられる関係が生まれる。それは、一方が他方に寄りかかるだけの関係ではない。手をさしのべる側もまた、自分が必要とされることで支えられているのである。

⑥ 強さとは、何でも一人でこなせることではなく、自分の弱さを他者とのあいだにさらせることなのかもしれない。人と人とのあいだは、弱さを通してこそ結ばれるのである。

問　――線部「人と人とのあいだは、弱さを通してこそ結ばれる」とあるが、どういうことか。「むしろ」の前後の対比に着目して、八十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

要素（＋側・－側・まとめ・例）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80

80字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　評論(説明型)「ひとりでいる時間」

① 人とつながることは、現代社会でもっとも価値のあることの一つとされている。つながりの少ない人は「孤立」していると心配され、ひとりで過ごす時間は、さびしく、避けるべきものと見なされがちである。

② これに対して、ひとりの時間こそが大切だと説く声もある。人間関係に疲れたなら、つながりを断ち、ひとりの静けさの中で自分を取りもどせばよい、というのである。通知を切り、山の中で数日を過ごす旅が人気を集めているのも、そうした考えの表れだろう。

③ しかし、この二つの考えは、正反対のことを言っているようでいて、じつは同じ前提に立っている。どちらも、「ひとりでいること」と「人とともにいること」を、どちらか一方を選ぶべき対立したものとして扱っているのである。一方を持ち上げれば、もう一方はおのずと退けられる。

④ 実際の私たちの経験は、そうなってはいない。友人との会話の中で言われたひとことが、帰り道、ひとりになってから、ようやく胸に落ちることがある。反対に、ひとりで考えつづけてもまとまらなかった思いが、だれかに話しはじめたとたん、言葉になることもある。あるいは、ひとりで読んだ本の一節が、何年もたってから、だれかとの会話の中でふいに意味を持ちはじめることもある。

⑤ ひとりでいる時間は、他者から受けとったものを自分の中で熟させる時間である。そして、ともにいる時間は、自分の中にあるものが他者にふれて形をとる時間である。どちらか一方だけでは、他者の言葉は自分の中に根を下ろさず、自分の思いは外に向けて開かれない。

⑥ ひとりの時間もともにいる時間も、それだけを取り出して善し悪しを論じることはできない。だとすれば、問うべきなのは、つながるか、ひとりになるか、ではない。ひとりでいることとともにいることを行き来しながら、両者がたがいを支えあう、そのリズムをどう生きるかなのである。

問　――線部「つながるか、ひとりになるか、ではない」とあるが、筆者は「ひとりでいること」と「人とともにいること」の関係をどのように考えているか。本文全体の論の流れをふまえて百二十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

要素(＋側・－側・まとめ・例)	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80
									90										100
									110										120

120字以内(1マスに1字。句読点も1字)

解答と採点表

練習1　評論「弱さを見せる」

解き方

1. **手順1　譲歩構文**
   ②段落「もちろん～大切である。だが～」。逆接の後ろ（だれにも頼らずに生きている人はいない）が筆者の考え（R03-3）。
2. **手順2　「むしろ」の前後**
   ⑤段落：前＝弱さを見せることは相手に負担をかけること（③の不安＝－）。後ろ＝相手に手をさしのべる場所をひらくこと（＋）。
3. **手順3　キーワード「あいだ」**
   ⑤⑥段落の「人と人とのあいだ」「他者とのあいだ」。⑤の「支え、支えられる関係が生まれる」が、――線部の「結ばれる」の中身（R03-5）。
4. **手順4　具体例を外す**
   ④段落の看護師の話は具体例。「先輩にたずねた」はそのまま書かず、「弱さを見せて助けを求める」と抽象化する（R03-4）。
5. **手順5　両側を書く**
   「～は、相手の負担になるのではなく、むしろ～ということ。」の形にする（R03-6）。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
主張（＋）	弱さを見せることは、相手に手をさしのべる場所をひらく	⑤	◎ 入れる
結ばれるの中身	人と人とのあいだに、支え、支えられる関係が生まれる	⑤⑥	◎ 入れる
対比の相手（－）	弱さを見せる＝相手に負担をかける（という見方）	③⑤	○ 入れる
具体例	新人の看護師が先輩にたずねた	④	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（八十字以内）　77字／80字以内

弱さを見せて助けを求めることは相手の負担になるのではなく、むしろ相手に手をさしのべる場所をひらき、人と人とのあいだに支え、支えられる関係を生むということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
主張(＋):弱さを見せることが、相手に手をさしのべる場所をひらく	4点
結ばれるの中身:支え、支えられる関係が生まれる	3点
対比の相手(−):相手の負担になるのではない	2点
「〜ということ。」で終え、具体例をそのまま書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「新人の看護師が先輩にたずねると、人が集まるということ。」	具体例のまま。0点〜1点。
「自分のことは自分でできることが大切だということ。」	譲歩の部分(もちろん〜)＝筆者がいったん認めたこと。主張と逆。0点。
「弱さを見せると人が結ばれるということ。」	——線部のくり返し。「結ばれる」の中身(支え合う関係)も、「むしろ」の対比も無い。1点。

練習2　評論(説明型)「ひとりでいる時間」

解き方

1. **手順1　＋が入れかわる**
   ①段落はつながりが＋・ひとりが−。②段落は反対に、ひとりが＋・つながりが−。＋と−が段落ごとに入れかわる。
2. **手順2　わなに気づく**
   ③段落「しかし、この二つの考えは〜同じ前提に立っている」。筆者は①②のどちらにも＋をつけていない＝二項対立そのものを問い直す文章(R03-2・R03-7)。
3. **手順3　両者の関係**
   ⑤段落:ひとり＝他者から受けとったものを熟させる。ともに＝自分の中のものが他者にふれて形をとる。一方だけでは足りない(支えあう)。
4. **手順4　結論**
   ⑥段落:問うべきなのは、両者を行き来しながら支えあうリズムをどう生きるか。④段落の帰り道・話しはじめる例は書かずに、⑤の抽象的な言い方を使う。
5. **手順5　百二十字で組む**
   ③(対立ではない)→⑤(それぞれの役割・支えあう)→⑥(行き来するリズム)の順にならべる。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
前提の否定	二つは、どちらか一方を選ぶべき対立したものではない	③	◎ 入れる
ひとりの役割	他者から受けとったものを自分の中で熟させる	⑤	◎ 入れる
ともにの役割	自分の中にあるものが他者にふれて形をとる	⑤	◎ 入れる
結論	両者を行き来し、たがいに支えあうリズムをどう生きるか	⑥	◎ 入れる
読みちがい	つながりが大切／ひとりの時間こそ大切（①②の考え）	①②	× 入れない
具体例	帰り道にひとことが胸に落ちる／話しはじめると言葉になる	④	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（百二十字以内） 113字／120字以内

二つは一方を選ぶべき対立したものではなく、ひとりの時間は他者から受けとったものを熟させ、ともにいる時間は自分の思いが他者にふれて形をとる時間としてたがいを支えあうので、両者を行き来するリズムをどう生きるかが大切だと考えている。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
二つは、一方を選ぶべき対立したものではない	3点
ひとりの時間・ともにいる時間、それぞれの役割（熟させる／形をとる）	3点
両者を行き来し、支えあう（リズムをどう生きるか）	3点
具体例をそのまま書いていない・文末が問いに合う	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「人とつながることより、ひとりの時間こそが大切だと考えている。」	②段落の考え（筆者が問い直している側）。片方に＋をつけたので、筆者の主張と食いちがう。0点。
「帰り道にひとりになると、友人の言葉が胸に落ちるから、両方大切。」	具体例のまま。役割が抽象化されていない。10点中3点。
「ひとりでいることとともにいることは、どちらも大切だ。」	「どちらも大切」だけでは、両者の関係（支えあう・行き来する）が無い。10点中3点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U03 文章の骨組み（アドバンス）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます